

第2学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 家族愛 4－(6)
資料名 「何だっていいんだあ」
(出展「彩の国の道徳」中学校『自分を見つめて』埼玉県教育委員会)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目4－(6)「父母、祖父母の思いを受け止め、家族の一員として充実した家庭を築こうとする態度を養う」とある。今日家庭の状況も様々であり、その姿は一様ではないが、大切なことはその家族を構成する成員相互の温かい信頼関係であり、愛情によって互いが深い絆で結ばれていることの自覚を持つことである。そこで、本主題では、家族からの思いを知り、自らの家族への接し方を振り返らせることを通して、家族の一員としての自覚を深め、充実した家庭生活を築こうとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

本来、明るく堅実なものごとに取り組むことができる生徒達である。また男女の仲も良く協力しあうことができる。学級活動や生徒会活動を定める場面では、個の考えが先行し、活動に対して消極的な生徒もおり、なかなか話合いが進まないこともある。学校と家庭とで見せる表情が違う生徒もいる。この時期はまだ家族の一員としての自覚が薄く、素直になれないことが多い。一番身近な家族に対しても素直になれず、時には反抗的な態度をとる生徒もいる。自分を支えている家族の存在、特に親の子を思う思いに気付かせたい。今回は家族に対して自分がどのように考えているかというアンケートを事前に実施し、今の正直な気持ちを明らかにさせてから授業に望ませたい。

(3) 資料の活用について

本資料の父は、普段「何だっていいんだあ」と他人事のように、子供たちのことにはまったく何の関心もなさそうな父である。しかしその父は、姉の大事な進路選択の相談についても、表面的には無関心をよそおいながらも、心配で、いてもたってもいられない。主人公の「僕」は、温かく見守ろうとする父親の姿と気持ちに気付き、父のことを理解し、自分の家族のあり方に考えていく。そんな「僕」の気持ちの変化を通して、家族の絆、家族を思いやる気持ちについての考えや思いを深め、ねらいとする価値に迫りたい。

3 ねらい

父母への敬愛の念を深め、家族の一員として充実した家庭生活を築こうとする態度を養う。

4 学校研修課題「道徳の時間を要として、人としてのよさに気づき、よりよい生き方を育む道徳教育の推進」との関わりについて

道徳の時間を要とした道徳教育の推進を図るために、本学年では資料分析を学年で行い、その分析をもとに指導案を作成し、事前に各クラスでの授業実践を行い、研究協議会に臨んだ。

本授業の展開では、自己を見つめる時間を十分に確保して、考えを深めさせ話合いにつなげる。また、自己にもどす終末の段階では、指導内容がより深まるように保護者の手紙を活用していく。さらには、総合単元的に授業展開ができるように意識的に事前・事後指導にも取り組んでいく。

5 学習指導計画

(1) 事前指導	「家族」についてのアンケートを実施する。
(2) 道徳の時間	資料名「なんだっていいんだあ」
(3) 事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で、家族との関わりや親の手助けが必要な場面を見取り、親の言動の裏に隠れる気持ちを考えるような声かけをする。 ・三者面談を通して、家族の考えにふれ、素直な気持ちでその愛情を受け止め、家族に対する感謝の気持ちをはぐくむ。
(4) 家庭との連携	学年、学級通信 家庭用 彩の国の道徳の利用
(5) 他教科との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保健体育では、思春期の心について学習し、親に対して反抗したくなる気持ちは誰にでもあることを押さえ、家族の一員としてどうあるべきかを話し合う。 ・家庭科では、保育に関する学習をし、自分が親の愛情を受けて育ってきたという事実を学び、親の考え方を知る。 ・特別活動では、合唱コンクールですばらしい合唱を披露し、親に感動を送るとともに、家族の話題として話し合ってもらおう。

6 学習指導過程

	学習過程	予想される生徒の反応	指導上の留意点(・)評価(☆)
導入	(1)アンケートを掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の親と同じだ。 ・こういう家族もあるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに価値への方向づけを図る。
展開	(2)資料の条件・状況を知る。		
	<p>登場人物 僕（主人公）小5 姉 中3 受験生 父（町田博勝） 44歳 口癖は「何だっていいんだあ」 家族の中でいつも1人だけ浮いている。 食事のときはまったくしゃべらない。 父は家族に対して無関心。 「通知表を見せろ」とか「テストの結果は」などと言われたことがない。 学校で賞をもらっても、ほめられた覚えがない。</p>		
	(3)範読を聞き、話合いの方向性をつかむ。 (4)話合いの柱立てをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞き、心に残ったことに線を引く。 ・生徒から出た話合いの柱を話し合う順に整理する。 ・話合いの柱が出ない場合は教師から提示する。
①受験の相談をした姉が「何だっていいんだあ」と言われた姿を見たときの僕の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○いつもならまだ許せるが、こんな大切なときにその言葉はひどい。ありえない。 ○親なのにこんなに適当でいいのか。 ○親ならもっと子どものことを真剣に考えてくれてもいいんじゃないか。 ○やっぱり僕たちのことなんてどうでもいいと思ってるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・父の無関心な言動に対する僕の憤りやあきらめに共感させる。 	

	<p>②父の涙を見たときの僕の気持ちを考える。</p> <p>③父に「何だっいいんだ」という投げやりな言葉をかけてほしいと願う僕はどんなことを考えているのか。</p> <p>(5)授業を振り返り、今日学んだことを書き、発表する。</p>	<p>○もっとわかるように、態度や言葉で言ってくればいいのに。</p> <p>○「なんだっいいんだあ」の口癖を言葉通り受け止めていたけど、本当は僕たちのことをとても大切に思っていたんだな。</p> <p>○お父さんの本当の気持ちをもっと早くに気づけばよかった。</p> <p>○本当は、いつも僕たちのことを考えてくれていたんだな。</p> <p>○きっと僕たちのことが心配で心配で仕方がないのだろうけど、お父さんの気持ちがわかるから、僕なりにがんばるよ。</p> <p>○お父さんの信頼にこたえられるようにやってみるよ。</p> <p>○そんなに心配しないで。僕も精いっぱい努力するよ。</p>	<p>・子どもを思う親の愛情の深さに気づく主人公の気持ちを十分に考えさせる。</p> <p>☆子どもに対する親の愛情の深さに触れ、考えることができたか。</p> <p>・自分の家族に対する態度や思いなどを振り返り、その思いや考えを書き、発表する。</p> <p>☆自分の考えを深めることができたか。</p>
終末	(6)保護者からの手紙を聞く。		<p>・保護者の思いを感じ取らせ、態度へとつなげる。</p>

7 評価の観点

☆本時の評価

- ・親の深い愛情に気づき、家族の一員として充実した家庭生活を築こうとする意欲をもつことができたか。

☆授業における評価

- ・他者の意見や考えを聞き、自分の考えを深めることができたか。
- ・自分の考えや意見をまとめ、進んで表現することができたか。

☆授業後の評価

- ・三者面談や文化祭など、父母との関わりあえる場面で、生徒一人ひとりの態度や表情などの変化の様子を観察する。